

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

活動名	小・中学生の学習支援及び子供食堂・居場所づくり
団体名	ぼくらの教室
この活動で取り組んだ地域の課題や背景(※)	鹿嶋市の中で高齢化率約47%で一番高い子供の教育、高齢者の問題が山積です。地区社協の会長として6年余り、私が勉強した事を全世代型地域福祉社会に貢献したく、又 子供まんなか社会へボランティアと共に前進したいと思います。
この活動の目的(※)	地域の活性化(高齢化率47%)、大野地区はほぼ市街化調整区域になり、新住民が増えない事と工業地帯が元気のない時で、子供・保護者と出会う場を作り元気な場所にした
活動の対象(※)	小・中学生、その他高校生及び不登校・特別支援学校の生徒など
実施内容	小・中学生、その他不登校の子供 毎月第1土曜日と第3土曜日に、先生は近隣の高校生(3～5名位)朝9時～11時頃まで その他ボランティアの方々の昼食をし、子供の居場所としてゲームやカード遊び・その他自由時間に行っています。 同時間に親子でEnglishに参加している子供もいます。
活動実施後の成果	ゆとりある教育と食事の充実ぶりが相まって子供達の笑顔が一段と明るくなっている家族の姿が想像できる。 教育と経済の格差是正の一端が多少心配している。 高齢化率が急激に高くなる可能を心配している。
今後の展望や新たに増えてきた地域課題	少子高齢化や人口減少で急に「子供まんなか社会」をうたい「こども家庭庁」を作りました。「子供をまんなかにおいて社会全体で育てると云っています。私達は、将来 国・県・国民はいかに向き合うか?日本全体で考える時が来たと思います。 学習支援は、少子高齢社会の影響が少しづつ出ている様子が伺えます。逆に高齢者の方は、元気なお年寄りが増える傾向が見られます。
寄付者への一言(※)	前ページに対して、未来ある子供達に可能な限り寄り添い、より高い希望をもって頑張ってもらいたいと思っています。又、今まで頑張ってきて来られた高齢者にも全世代型福祉社会にも目を向けてボランティアと共に頑張っていきます、感謝しております。

※ 申請書から転記いただいて構いません。

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

自己評価 (いずれかに ○を記入)	A. 目標を超える成果を得ることができた ☒ B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ()
自己評価で C を記入された 場合、その理由	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。